



# 彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク あつたかウェルねっとニュース 第23号

2016年10月8日発行

ホームページアドレス <http://www.geocities.jp/attaka17/>

2011年3月11日の東日本大震災より5年が過ぎました。失われた多くの尊い命のご冥福を祈り続けるとともに、一日も早い被災地の復興・復旧を願い、被災された皆様の安心安全を心よりお祈り申し上げます。

あつたかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well-being(幸福)のWell(大切にという意味)で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

## あいさつ

### 15周年を迎えてこれからの展開

ねっと事務局長 須田正子  
(坂戸市・第3期推進員)

5月の総会および15周年事業 あつたか福祉交流セミナー2016「18歳とふくし～未来への種まき、若者力を育てよう～」でスタートした平成28年度も半ばとなった。前年度から準備を進めてきた「若者への福祉教育研究会」も、関係各氏のご指導や県社協のご理解をいただき、設立の運びとなって、16年目を力強く歩み始めている。

あつたかウェルねっと設立は2001年。少子高齢化・2000年介護保険制度開始・自己選択自己決定の時代へと大きく変わる中、福祉教育・ボランティア学習推進員（以下、推進員）が養成され、「共に生きる」ノーマライゼーション社会の醸成を図るために、県内各地の推進員たちは豊かな福祉観をもってそれぞれの活動に活かし続けてきた。

世界に例を見ない急速な高齢化（超高齢社会（2008）から超超高齢化社会（2030）への変化）をはじめ、課題山積の社会情勢となった今、「若者福祉」にも重点を置きながら、これまでの積み重ねや福祉の種まきを継続し続ける事も大切にしていくたい。

未来へ向けて豊かな福祉観を伝えて行く実践と、福祉教育の地域への広がりを実感しつつ、子どもから高齢者すべての年代の一人一人が少しづつ力を重ね合い、誰もが誰かの力になれる地域づくり（地域福祉）の輪を一層広げていきましょう。



### 2016年8月10日に設立の会



多分野で活躍の方々  
と  
「若福研」設立

はじめに、副会長河村美穂氏（埼玉大学教授）の挨拶があり、会長横田八枝子氏の設立宣言に続いて、県社協澤事務局次長の来賓挨拶（県社協平田有紀氏代読）より、福祉課題についての現状や若福研への温かいエールをいただき、ご賛同ご参加くださった55名の皆様と若福研がスタートしました。

若福研では2025年に向けて、埼玉そして日本に住む若者が、ともに生きる力を身につけ、安易な自立觀ではなく、相互実現的自立の視点を持ち、社会の一員として自分らしく歩むための福祉教育実践の創生を目指します。

## 若者への福祉教育研究会とは

### 研究のコンセプト

「若者が主役の共生力(共に生きる力)を育む  
～生活者の視点を持って～」

### 研究の目標と《効果》

- ① 埼玉方式で若者の共生力を育む《実践プログラムの創出・普及》
  - ② 地域で若者の社会福祉意識を創り出す《相互実現的自立》
  - ③ 福祉教育推進員や地域活動者・教育関係者・行政関係者・企業などがチームを組んでの協働実践で新しい仕組みづくり《新しいつながり》
- のために、埼玉県内の福祉教育実践をプログラム化し、研究者と実践者がネットワークを構築しながらそのプログラムのブラッシュアップに取り組み、啓発・普及する。

### アンケート調査からの研究

福祉教育に関する実態を把握しながら、今後の展開に繋げていく。

### 研究会アドバイザー紹介

- ☆原田正樹氏（日本福祉大学教授）
- ☆河村美穂氏（埼玉大学教授）
- ☆村上徹也氏（市民コンサルタント・日本福祉大学教授）
- ☆佐藤陽氏（十文字学園女子大学教授）
- ☆松本すみ子氏（東京国際大学教授）
- ☆諏訪徹氏（日本大学教授）
- ☆中島修氏（文教学院大学准教授）
- ☆菱沼幹男氏（日本社会事業大学准教授）

## 【若福研】 第1回研究会

若福研設立後、アドバイザーの原田・



河村・村上各先生による鼎談(ていだん)「埼玉発！若者への福祉教育とサービスラーニングの意義」、および筑波大学付属坂戸高校教諭・熊倉悠貴氏からの高校での実践プログラム「事例発表」をとおし

て、若福研の今後への学びを深めました。

## 若福研の様々なプロジェクト

若者への福祉教育研究会事務局長

牧野郁子

(鶴ヶ島市・第2期推進員)

設立から2か月が経過し、プロジェクトチームが立ち上がりはじめています。

設立の会で報告していただいた高校実践・筑波大学付属坂戸高校「福祉からみた生活」をはじめ、大学では、聖学院大学ボランティアセンターの実践を川田虎男氏が、河村美穂研究会副代表をアドバイザーとして研究を開始しています。また、10月11日にはワークキャンプ実践を川越市社協、日高市社協、吉川市社協の担当職員が佐藤陽先生をアドバイザーとして研究を始める予定になっています。

今後は、あつたかウェルねっとの皆さんのが現在行っている、もしくは、これから取り組もうとしている実践を研究としてとり上げる方向であり、更に県内で行っている精神保健の実践につきましても研究ができればと考えています。

ぜひ、自分達の実践を見る化し、ブラッシュアップしたい方は手を挙げ、研究会・学習会をご活用いただきたいと思います。

### 【若福研】 第1回学習会

9月6日(火)、  
13:30から、彩の国



すこやかプラザ会議室にて、埼玉県教育委員会家庭科指導主事の山盛敦子氏をお招きし、高校家庭科教育と福祉教育の接点について学習会を持ちました。

山盛先生からは、県立高校の福祉教育に関する

1. 福祉科目を設置している学校
2. 家庭科「生活と福祉」を設置している学校
3. 高等学校学習指導要項解説家庭編(平成22年)

### 5月)からの現状と課題

について、お話をいただきました。今後につながるたくさん情報を得ることが出来ました。

#### ◆…次回の学習会…◆

10月20日(木) 14:30~

申込みは事務局へ

講師：副会長河村美穂氏（埼玉大学教授）

内容：研究のあり方・プログラムの見える化

場所：ウェスター川越 活動室5（2F）

## 報告いろいろ

### 東京都青年学生赤十字奉仕団講習会

昨年、教育学の授業で、吉田より子さんのお話を聞いて感じた「ふくしの心」を奉仕団のボランティア仲間にも伝えたいと講演依頼がありました。

講演者：ねつと副代表 吉田より子

(嵐山町・第5期推進員) &盲導犬ラッキー

協力：ふくふく木曜会（東松山市/嵐山町/吉見町

3市町協同の福祉教育推進団体)

奉仕団アンケート報告：大東文化大2年内田尚吾氏

日時：2016年9月17日(土) 13時～16時

会場：日本赤十字社東京都支部（東新宿）

参加者：44名（役員含む）男23名 女21名

(1年7名/2年22名/3年10名/4年4名/青奉1名)

#### <アンケートより>

Q. 吉田より子さんのお話や、アイマスク体験の内容はいかがでしたか？

A. 吉田さんは視覚障がいの視点でお話しさっていましたが、すべての話が自分にあてはまると思いながら聞いていました。困っている人を助けるための声かけ、自分の気持ちを伝える大切さ、相手を尊重する気持ち、すべて自分が生きていくうえで大切なことだと思いました。

A. あつという間の3時間でした。相手の立場に立つことの大切さを感じました。

A. 「これもできない」「あれもできない」ではな

くて、“できることを探す”という言葉がとても印象的でした。私は自分に自信がありません、それでも自分に何ができるのか考えていきたいと感じました。

A. 家族や友人などに、「こういった講習会に参加してきた」と伝えたいと思います。

A. 今まで本当にいろいろとありがとうございました。吉田さんのお話は何度聞いても新しく発見できることばかりで、盲導犬の役目や注意事項、生を受けた人としての生き方、ボランティアをする心、参加した学生にもしっかりと届いたと思います。アイマスク体験でははたしてどこまでやつたらよいものかと、ガイドの難しさを感じ、こういった機会がないと経験しないことですのでとても貴重な時間でした。皆様との出会いがこんなにも素晴らしい講習会を開催できることにつながり、私にとって一生の思い出になりました。是非、これからもふくもく会に顔を出させてください！ありがとうございました。

### 人事院 中堅係員研修

ねつと副代表 木野登紀子  
(毛呂山町・第2期推進員)

高橋キミ子、須田正子  
(坂戸市・第3期推進員)

協力：障害者とボランティアの会あしたば寺井正光氏  
・浜本則子氏、声なびやわかば南幸久氏

9月30日、人事院関東地区中堅係員研修で、埼玉県社会福祉協議会地域活動支援課大島聰志課長の講義「相手の視点に立って考える」の後、疑似体験およびワークショップを担当しました。

研修生48名（平均年齢約28歳）の「車イス、アイマスクの体験は自らの考え方を変える非常に貴重な体験となった。」「障害者の方の自立を考えたコミュニケーション法を考えられた。」「障害者の視点がわかった。」「一声かける大切さは、障害があってもなくても役に立つことだった。」等の意見を聞き、私たちの思いが伝わった事を確信しました。

## 秋カフェのお知らせ

### ねっと秋カフェ「若福研とコラボで学ぼう！」

内容：サービスラーニングと福祉教育  
～「地域」から体験的に学ぶ～

日時：11月11日（金）13:30～15:45

場所：坂戸駅前集会施設 集会室（2F）  
(東武東上線 坂戸駅北口 徒歩5分)

参加費：200円（資料・茶菓子代）

パネラー：横田八枝子・牧野郁子・須田正子

これまで学んできた「社会的有用感／自己肯定感・共生的人間観（「共に生きる力」）・自己の成長と社会とのつながり・社会に貢献する活動」について、原田正樹先生・村上徹也先生のレジュメを使わせていただき、参加者とパネラーがディスカッションしながら学びを深めます。

関心のある方はどなたでも参加できますので、申し込みをお待ちしています。

申込先：ねっと事務局 須田正子（右記）

## 県社協からの情報

県社協では全社協との共催により、「ふれあい・いきいきサロン全国研究交流会 in埼玉」を12月に開催します。全国のサロン活動の実践者が一堂に会し、日頃のサロン活動を振り返るとともに、音楽レクリエーション技術を用いてサロン参加者が元気になり、今後の取り組みが一層魅力的となることを目的に実施します。

8月から実施しております孤立防止フォーラムは、4会場のうち横瀬町、毛呂山町、幸手市の3会場で終了し、749名の地域の方々にお集まりいただき、「少しでも多くの人と地域の橋渡し役をしていきたいと思った」「支え合うという考えが大切だと分かった」との感想をいただきました。今後もより多くの県民の皆様に知っていただく、気づいていただく取り組みを推進していきます。

引き続き、推進員の皆様のご支援とご協力をよ

ろしくお願ひいたします。

### 孤立防止フォーラム

10月24日(月)13:30～16:30	三芳町立藤久保公民館ホール
----------------------	---------------

サロン活動者のためのレクリエーション研修

10月19日(水)13:30～16:15	北本市総合福祉センター
10月31日(月)13:30～16:00	吉川市中央公民館
11月11日(金)13:30～16:15	朝霞市総合福祉センターはあと ひあ

ふれあい・いきいきサロン全国交流会

12月4日(日)10:00～15:50	彩の国すこやかプラザ
---------------------	------------

## 事務局情報

### マーリングリストで情報を

「あつたかウェルねっとML」「若者への福祉教育研究会ML」と、二つのマーリングリストが動いています。会員・賛助会員の方でメールアドレス（携帯も可）をお持ちの場合、マーリングリストの登録ができます。希望する方は事務局までお知らせください。

ねっと事務局 須田 049-283-1865(FAX)

メールアドレス : masako@niconico39.net

### 会費振込先のお知らせ

活動は、ねっと会費（年1000円）で運営しています。  
みなさまのご協力をお願いします。

振込先：埼玉りそな銀行武藏浦和支店・

普通預金口座番号：5015782

名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク

### 編集後記

いよいよ若福研が活動開始。研究会と学習会の報告が紙面を飾りました。ねっと報告や秋カフェのお知らせもあり、盛りだくさんの内容に。是非、興味関心のあるところにご参加を！皆さまからの情報もお寄せください。

発行：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員

ネットワーク（通称：あつたかウェルねっと）

編集：あつたかウェルねっと（情報担当）

連絡先：埼玉県社会福祉協議会地域活動支援課

TEL : 048-822-1435

FAX : 048-822-3078

Mail : vc@fukushi-saitama.or.jp